

平成26年度

第59回 長野県中学校連合教科研究会

道 徳

目 次

I 研究テーマ	1
II 趣旨	1
III 参加校の研究要旨一覧と参加者名, 指導者名	1
IV 研究問題と協議内容	2～8
V 本年度の研究の反省と来年度の方向	8～9
VI あとがき	9

道徳 研究集録

I 研究テーマ

「学び合い、道徳的実践力を高めていく学習のあり方」

II 趣 旨

- (1) 中学校教師だけでなく、小学校や特別支援学校教師もかかわり、明日の道徳の時間をどのように進めるかを考え合い、学校に戻り、実践したいと思えるようにする。
- (2) 児童・生徒の姿や心情をもとに道徳の授業を構築していく方向を大切にしたい。特に、児童・生徒のもつ良さを捉えたり、生徒の姿に寄り添ったりした上で、資料づくりや展開を図っていく方向にしたい。そのことによって学習している生徒が「楽しかった」「学んで良かった」と思える授業をめざしていきたい。
- (3) 生徒の実態把握とねらいを明確にして、生徒が道徳的な価値を主体的に追求できる単元展開や一時間の授業の展開を工夫し、生徒にとって魅力ある道徳の授業を紹介し合いたい。
- (4) 評価の実際について意見交換し、望ましい評価方法について明らかにしていきたい。

III 参加校テーマ一覧と参加者、指導者名

第1, 第2合同分科会（午前） 第2分科会（午後）

指導者 長野県教育委員会 教学指導課 矢島 和明 先生
南信教育事務所 指導主事 竹内 仁一 先生（午前のみ）
司会者 小谷村立小谷中学校教諭 湯本 学 先生
記録者 伊那市立春富中学校教諭 金箱 仁志 先生
世話係 信州大学教育学部附属長野中学校教諭 高橋 康弘 先生

番号	学校名	参加者名	研究テーマ *研究の要旨
1	須坂市立相森中学校	田中英春 先生	生徒自らが心を耕し、考えを深めていく道徳の授業はどうあったらよいか～自分らしい考えを大切にしながら、友と関わることを通して～ *生徒が考えをもち、その考えを友と深め合うための情報交換のあり方。自分と登場人物との思いを重ね、その思いを自分に引き寄せて考えるための「葛藤場面」のあり方
2	安曇野市立穂高東中学校	市川 薫 先生	友と関わり合って道徳的実践力を高めていくための授業のあり方
3	信州大学教育学部附属 長野中学校	高橋康弘 先生	自らの成長を感じ、これからの課題や目標を見付ける力を高める指導の在り方 *「私たちの道徳」と「道徳資料」の併用した授業
4	松本市立旭町中学校	臼井智昭 先生	友の考えにふれ、自己に問いかけながら道徳的心情を高めていく指導はどうあればよいか。～グループ活動を取り入れた授業を通して～
5	松本市立信明中学校	佐々木夏恵 先生	生徒の気持ちがゆれ動く道徳の授業

6	松本市立女鳥羽中学校 小日向里美 先生	日常の生活を振り返り、自分や仲間の成長を感じることでできる道徳の時間
7	信州大学教育学部附属 松本中学校 内川 才 先生	学級の仲間と思いを伝え合い、自分らしさに出会う道徳の学習 *自身の思いを伝え合える場の設定 *生徒が「難しい」と感じる道徳的価値の自覚の深まり

第1分科会（午後）指導者・司会者・記録者

指導者	南信教育事務所指導主事	竹内 仁一 先生
司会者	原村立 原中学校	春日 秀紀 先生
記録者	安曇野市立穂高東中学校	中村 大樹 先生
世話係	附属松本中学校教諭	内川 才

番号	学校名	参加者名	グループ
1	原村立 原中学校	春日 秀紀 先生	1
2	安曇野市立 穂高東中学校	中村 大樹 先生	1
3	安曇野市立 豊科南中学校	松島 千尋 先生	2
4	松本市立 丸ノ内中学校	澤谷 昌英 先生	3
5	松本市立 菅野中学校	久保田 圭一先生	3
6	飯田市立 旭ヶ丘中学校	腰原 綾佳 先生	2
7	上田市立 第二中学校	塩田 直人 先生	2
8	信州大学教育学部附属松本中学校	内川 才	3

IV 研究問題と協議内容

【第1分科会】（午後）

資料「カーテンの向こう」 立石 喜男 作

上記資料を用いた道徳の時間を中学1年で実践するために、どのように1時間を進めていけばよいかを3グループに分かれて検討した。検討の際、授業の中で「学び合い」はいつ、どのような場面で起きるのか、そのとき教師は何かができるのか、生徒がこの授業を通して「道徳的実践力を高める」とは具体的にはどのような姿かを明確にしていくようにした。検討した内容は、各グループ毎に発表し、指導者の竹内先生にご指導をいただき、課題を明確にした上で、再検討を行った。



検討結果は信濃教育会研究調査部の先生方にお渡しし、来年度以降の「私たちの道」または「私の築くみちるべ」に掲載可能かどうかを検討していただいた。

竹内先生の授業作りについてのご指導

～ねらいとする道徳価値を明らかにして、発問を構想しよう～

○授業作りで大切にしたいこと

- ・導入でこれまでの経験で本時ねらう道徳的価値が込められた行為とそのときの思いを想起できるようにすること。反省の道徳でない。導入でしっかり本時ねらいたい道徳的価値を想起するからこそ展開で深まる。いきなり発問に入らない。
- ・明確な指導観をもつこと。価値観、生徒観（こどもがこれまで何を学びどんな状況か、育てたい子ども像を持つ）、資料観（どのように資料を活用するのか）を教師が明確にもつこと。そして、道徳的心情、判断、意欲の何をねらうかを明確にしていく。

○実際に発問を考える

「最後の贈り物」 暖かい人間愛の精神をふかめ、他の人々に感謝と思いやりの心を持つ

(1) 指導観を明らかにする

- ・心情を育てたい
ロベータはどのような気持ちで最後の手紙を読んでいるか。
- ・行動するための判断力を高めたい
「僕が付き添います。」と仕事を休んでまでおじいさんの看病をしようとしたのは何故か。悔しい思いの中で決めだしたロベータの気持ちを考えられる。
- ・気持ちを強く持つことの大切さ 意欲
ロベータは、どんな気持ちで遠くに視線を移したのだろうか。おじいさんの思いを受け止め行動しようとする気持ちの強さを考えられる。

(2) 資料の吟味

- ①ねらいを明確に（どのような姿をねらうか）
- ②道徳的価値を補充、深化、統合していくことができる場面を確認する
- ③中心発問を考える
- ④中心発問を活かす発問を考える
- ⑤何を見届けるか 心情をもつ→程度や深さ。判断力の高まり→的確性（判断をするに至った理由が的確なものであったか） 実践意欲や態度の育ち→強さや確実性
見届けをしっかりと行うために、導入で日記・写真の提示→価値との関わりから意味づけ合う。（自分ごとになっていく）価値の意味付けが行われたあと、子供達に経験を問うていく。1時間の追求で道徳的価値が自分の心の中でどのように在るかを振り返る。そのために導入を板書に残しておきたい。それを終末に見て本時学び得たことは何かを自覚できるようにする。

各グループが検討した指導案

第1グループ 原村立 原中学校 春日 秀紀 先生

安曇野市立 穂高東中学校 中村 大樹 先生

5 展 開 例

授 業 の 構 想

心を揺るがせる

「私たちの道徳 P55」の場面1、2を考える。

このような場面に出会ったとき、あなたならどうするか考えてみよう。

「しゃべっていることは元気づけるために必要。」「長く話過ぎていてゆっくり休めない。」

「友達がこまっているからいいと思う。」「自分で考えていないので、力にならないからよくない。」など

「こんな思いやりもあるんだよ。」と投げかけた後、資料を範読する。

ニコルの申し出を無視したときの、ヤコブの気持ちを考えてみよう。

ニコルにさらなる苦しみを与えたくないから。

見せてあげたいけど、見せてあげられないから。

今までやってきたことを水の泡にしたくない。みんなの元気がなくな

価値観の交流

何故ヤコブは、命懸けで最後に外の様子を伝えたのだろう。

みんなに希望を最後まで与えていたいから。

自分の病状よりも、病室にいるみんなに希望をもっていてもらいたかったから。

みんなに希望をもっていてもらいたいし、次にこのベッドに寝る人にもおなじようにしてほしいから。

心への問いかけを深める

今日の授業を振り返って感想を書いてみよう。

(本当ならばこの前に、導入にかえられる支援を) 場面1・2に戻って

自分も相手に希望を与えられるような行動をとっていききたい。

自分のことよりも相手のことを考えていきたい。100%相手のことを考えた行動が本当の思いやりだと思う。

ヤコブのとった行動が自分ではできないことなのですごいと思った。自分もできるようにがんばりたい。

第2グループ 上田市立 第二中学校 塩田 直人 先生
安曇野市立 豊科南中学校 松島 千尋 先生
飯田市立 旭ヶ丘中学校 腰原 綾佳 先生

グループ2発表

子どもの実態 みんなで一緒に行動することを大切に考えながらも、一人一人の価値判断にもとづく行動をとり始めた生徒→判断力を養う

導入での発問 「嘘をついたことがあるか」「どんなときに嘘をつくのか」生徒の日常での経験を想起できるようにする。

補助発問 「カーテンの向こうの冷たいレンガをみたときの私の気持ちを考えよう」

中心発問 「カーテンの隙間から見える外の様子を話すときのヤコブの気持ちを考えよう」

課題 一番最後授業を終えるところで何を振り返るのか。最後「感想を書こう」でなくどのような言葉を投げかければよいか。

授業の構想

心を揺るがせる

5 展開例

「嘘をついたことがあるという生徒に「どういうときに嘘をつくのか」生徒の経験を想起させる。

・怒られると思って思わず嘘をついちゃった

カーテンの隙間から見える外の様子を話すときのヤコブの気持ちを考えよう

みんな俺の嘘にだまされているな。

みんなが楽しんでいるから嘘をついてもいいかな。

皆を楽しませたかったから自分が病気で苦しくても嘘をついたのだと思う。

カーテンの向こうの冷たい煉瓦の壁を見たときの私の気持ちを考えよう

窓の外が煉瓦になっているなんて想像もつかなかった。

私たちのためにヤコブはうそをついていたのだろうか。

なぜヤコブはうそをついていたのだろうか。

価値観の交流

第3グループ 松本市立 丸ノ内中学校 澤谷 昌英 先生
松本市立 菅野中学校 久保田 圭一先生

グループ3の発表の要旨

ねらい 自分自身の日常を振り返り、仲間との接し方を考えていければいい→道徳的判断

導入の発問 「どんなときに、クラスの仲間の思いやりを感じましたか」

補助発問 「ヤコブが死んだとき、悲しい顔をしていた私の気持ちは」

中心発問 「冷たいレンガを目にしたときの私の気持ちは」

課題 話の感想で終始してしまい、自分のことにフィードバックしていけない。

自分との関わりで価値を捉えるにはどうしたらいいか、特に最後の出口のところをどんな発問をしたらよいか。

授業の構想

5 展開例

心を揺るがせる

どんな時に、クラスの仲間の思いやりを感じましたか？

- ・休んだ時に、手紙をくれた。
- ・困った時に、助けてくれた。
※どうして、それが思いやりだと思ったんだろうと問いかける。
- ・自分が得をするわけでもないのに、行動してくれた。
- ・私をあたたかい気持ちにしてくれた。

ヤコブが死んだとき、悲しい顔をしていた私の心の奥底にあった気持ち

自分だけが、外の世界を見れることを、周りに自慢してやろう。

外の世界を見ることができると嬉しい。

長年一緒だったヤコブが死んでしまって悲しい。

価値観の交流

冷たいレンガの壁を目にしたときの、私の気持ちは

ヤコブが嘘をついてまで、自分たちを楽しませてくれたのはなぜか。

ヤコブを憎んでいたことへの後悔する気持ち。

○竹内先生 ご指導

- ・それぞれ中心発問、ねらいを大事にしていたのがよかった。
- ・最後の私の気持ちは、切なさ、後悔である。追求していく心情はプラスの気持ちだけではない。
- ・揺れるものが何か考えることが重要。生徒の経験にある思いやることへの喜び、思いやるよさを想起させたい。・・・この想起があるからこそ思いやりのないヤコブの行動に揺れる。
- ・嘘を導入で取り上げると内容項目が「正直」に変わるのではないか。導入では思いやることへ触れたほうがよい。導入でしっかりとした思いやりに触れるからこそ、ヤコブの「嘘」に生徒の心は揺れる。

生徒の心が揺れるとは、主人公が揺れることに思いを寄せて心が揺れる、主人公、ヤコブは揺れていなくとも、その行為と出会った生徒の心が揺れる。生徒自身の心が揺れることが何よりも大切。

- ・振り返りは、ただ感想を聞くのではなく、自分の心を見つめられる発問をしたい。

文責 第1分科会記録者 安曇野市立穂高東中学校 中村 大樹

【第2分科会】

1 他者理解を深めることができる支援のあり方について

(1) 穂高東中学校、相森中学校のレポートから

- ・ワールドカフェという、4人グループの話し合い→他のグループの取組を聞きにいき情報交換をするという手法では、他者の意見をより多く交換することができる半面、グループで行った後の個での取組の時間がなくなってしまう。全体での意見交換を行うときは個での時間を大切にしたい。
- ・中心発問をより厳選していくことで、生徒たちはより深く資料にのめり込むことができる。ただし、教師の資料に対する読み込みの深さに対し、生徒たちが初めて資料に出会う場面では浅い読みのため、ギャップが生じてしまうので、資料が生徒の心に深く響かないことが考えられる。わかりやすく考えやすい発問の設定が深まりにつながる。

(2) 竹内先生のご指導から

- ・葛藤場面では「自分がそうありたい」と思うことが揺れることで、それを安定させようと思いが深まっていく。ただし、ただ揺れっぱなしでは深まらない。だからこそ、中心発問を教師のねらい・本時の道徳的価値によって吟味する必要がある。
- ・話し合い場面でのグループ活動は課題解決のための手段であり目的になってしまっってはいけない。また、グループでしかできないこと・全体でしかできないことのバランスを考えて用いなくてはならない。
- ・教師が生徒の意見を受け止めたくなくなってしまうが、生徒・教師間ではなく、生徒間でのやりとりで深まりが生まれる。

2 道徳の時間の評価のあり方について

(1) 旭町中学校、附属松本中学校のレポートから

- ・単元をつくり、複数の教材で同じ道徳的価値の自覚を深めようとしていくとき、資料の選定や順序の組み方が難しい。どの資料の後にどの資料を選定することで深まりが生まれるか。よく検討していく必要がある。
- ・同じ資料でも、1年次・2年次・3年次ではとらえ方が違ったり、小学校での資料を中学校で扱ってみると過去の自分に疑問を感じたりすることもある。生徒の発達段階に応じた適切な資料を選定することで、道徳的価値の自覚の深まりは変わってくる。

(2) 竹内先生のご指導から

- ・育てたい「心情」「判断力」「実践意欲と態度」から逆算して、子どもの実態や教師の願いを踏まえ中心発問・補助発問を選定する。とくに中心発問は、資料を通じて何を考えさせ気付けたいのか、何を書かせたいのか意図をはっきりさせておく必要がある。
- ・道徳の評価はあるゴールに対するものではない。24の内容項目を年間35時間を通して計画的・発展的に学習していくことが大切。

3 自分とのかかわりで道徳的価値をとらえることができる支援のあり方

(1) 信明中学校、女鳥羽中学校、附属長野中学校のレポートから

- ・かかわりをもたせるために、資料の選定を大切にしたい。不必要に長いようであれば一部を削除したり、中心発問に迫る部分は事前に読むよう促したりするなどして、焦点化することも必要。
- ・道徳教材でないものを教材として扱う際には、ねらいとする道徳的価値以外の内容も多く含まれてしまうので吟味が必要。
- ・道徳と事前事後の行事等と結び付けることは避けたい。それは特別活動として学習したい。また、行事等での取組み方を目的としてしまうと、生徒も教師の意図をくんで記述する生徒も出てくることもあるので気をつけたい。

(2) 矢島先生のご指導から

- ・葛藤場面において、対立する二つの意見の中でも共通するものがある。それを教師が見つけ出して話し合いを促し、ねらいとする道徳的価値にせまるようにしたい。
- ・行動を期待していたら、それが「目的」になってしまう。道徳的時間では将来出会うであろう様々な場面、状況で実践できるような内容的資質を育てたい。ただし、生徒の実態把握には有効なので、ないがしろにはできない。もしつなげたいときは、終末場面で教師が生徒作文等を紹介することも考えられる。

文責 第2分科会記録者 伊那市立春富中学校 金箱 仁志

V 本年度研究会の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項目	内容
○本年度の研究テーマについて	よい
○研究の主な内容と研究の成果について	「学び合う」ということについて現場では課題を感じている。生徒が必要感をもてる「学び合う」場をどのように設定していけるか、もっと研究ができるとよい
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案を作るということで今までにない方向であって、一つの分科会の新しい方向を示せたのではないかと考える。(第一分科会) ・他校の実践の様子がよく分かり、また自分の実践を振り返る機会となりとてもよかった。(第二分科会) ・扱った資料だけでも事前に送ってもらえるとありがたい。
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し語りやすい雰囲気をつくっていききたい。 ・討議するポイントをしばって話し合えるようにしたい。 ・評価について生徒の見方をみんなで考える必要がある。
○研究集録等の Web ページ掲載について	原則レポート提出という文言で参加を躊躇する同僚がいた。本年度から分科会の研究の方向を変えたことについて、知らなかった。
○本年度運営全般について	よい

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	来年度も本年度と同じテーマで研究していく。
------------	-----------------------

○来年度の研究の趣旨	本年度の趣旨を踏襲していく。
○来年度の研究の方法	<p>「・学び合う」を生徒の姿で明らかにした実践をレポートで募り、討議できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分科会と実際に「学び合う」授業を作る分科会に分けて研究していく。 ・教科化，評価について考え合う時間を設ける。
○その他，改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局は分科会研究の方向を各校に明確に示す。 ・委員長は分科会のメンバー誰なのか予め伝える。 ・「当日持参」はありがたい。継続していく。ただ扱った資料は事前に委員長が参会者の先生方へ送る。(できる限り) ・重苦しい感じがレポート討議では感じた。もっとざっくばらんに語り合える運営を心がける。 ・当日話し合う内容については参会者に予め知らせておく。何をするか参会者先生が明確にできるようにする。 ・主事先生のお話をもっと伺える時間を設けていく。

VI あとがき

晩秋の一日，県下各地からお集まりいただいた先生方には，実践レポートや使用した資料，生徒の学びの姿や評価のあり方がわかる学習カードなどをもとにして，数多くの提案や討議をしていただきました。本年度の研究会を振り返ってみますと，道徳の時間に情熱を注いでおられる先生方の願いが，資料や主題の展開，学習課題の設定等に表れているレポートばかりで，なんとかして「道徳の時間」を生徒のために構想していきたいと取り組まれていることがよくわかりました。また，討議の中では，それぞれの実践のよいところを学んでいこうとする先生方の発言ばかりで，そこからも参会された先生方の熱意が感じられました。来年度もこのような熱心な研究会にしていきたいと考えております。

終始適切で温かいご指導をいただきました南信教育事務所指導主事 竹内 仁一先生，教学指導課指導主事 矢島 和明先生には心から御礼申し上げます。また，研究会を実りあるものにしてくださった司会の原村立原中学校 春日 秀紀先生，小谷村立小谷中学校 湯谷 学先生，細かく記録をとり厳しい日程の中で研究のまとめにご苦勞いただいた記録の安曇野市立穂高東中学校 中村 大樹先生，伊那市立春富中学校 金箱 仁志先生，数々の実践を携え熱心に協議していただいた参会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

委員長 内川 才（松本中）

副委員長 高橋康弘（長野中）